

平成24年度の事業報告

自 平成24年10月1日 至 平成25年9月30日

I. 展覧会

1. 第41回「日本の書展」直轄展

40回展に引き続き、41回展も直轄4展全展で講演会を併催した。講演会は、開催披露レセプションの同日、パーティーに先立ち行われ、講師は東京国立博物館名誉館員・元大東文化大学教授・当会評議員の古谷稔氏。「日本の書—美の確立から創造へ—」と題した講演は4展とも好評で、書家・関係者を中心に全展で1,000名を超える聴講があった。また、公募臨書出品者や掲載新聞を見た一般客からの聴講問い合わせも多数あった。

41回展の入場者数は40回展に比べ、直轄4展合計で約1,300名増加した。
(総入場者数: 41回展20,567名 / 40回展19,268名)

41回展ではチラシを取り止め、案内ハガキを制作。この案内ハガキに記念品交換券(現代書壇巨匠の出品作品絵はがき1枚を贈呈)を付けたが、交換した入場者は、前回より1,469名増加した。

40回展で制作した全作品掲載のDVDが閲覧しにくいと不評だったため、今回は、図録(現代書壇巨匠・現代書壇代表・委嘱作品と全出品者名簿を掲載)に、出品者本人の作品ブロマイドを2枚ずつ贈呈した。

(1) 関西展

会期 平成25年5月30日(木)～6月2日(日)

会場 大阪国際会議場(3階イベントホール)

主催 (公財)全国書美術振興会 産経新聞大阪本社

後援 文化庁

協賛 (公社)日本書芸院

講演会 平成25年5月30日(木) 16:30～17:30

リーガロイヤルホテル 2階 桐の間

開催披露レセプション 平成25年5月30日(木) 18:00～19:30

リーガロイヤルホテル 3階 光琳の間

関西展の出品数は、巨匠14点、代表76点、委嘱31点、招待386点、秀拔選653点、合計1,160点、会期中の入場者数は2,778名だった(前回40回展の入場者数は3,431名)。

産経新聞社の紙面協力、日本書芸院の協賛も得ている。

会期初日の5月30日(木)16時30分から、リーガロイヤルホテル2階「桐の間」において講演会を行い、出品書家・招待者・関係者・一般306名の聴講があった。

また、引き続き同日18時から、同ホテル3階「光琳の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて350名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、産経新聞社事業局長 竹田徹氏から共催者挨拶があった後、榎倉香邨顧問の書家代表挨拶へと続き、尾崎邑鵬顧問の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分過ぎに終了した。

(2)中部展

第1会場

会期 平成25年6月5日(水)～6月9日(日)
会場 愛知県美術館ギャラリー(愛知芸術文化センター8階 展示室A・B・C・D)

第2会場

会期 平成25年6月4日(火)～6月9日(日)
会場 名古屋市博物館(3階ギャラリー全8室)

第1会場・第2会場とも

主催 (公財)全国書美術振興会 中日新聞社
後援 文化庁 愛知県 岐阜県 三重県 名古屋市
各県市教育委員会 東海テレビ放送
協賛 (公社)中部日本書道会
講演会 平成25年6月5日(水) 16:30～17:30
名古屋東急ホテル 3階 バロックの間
開催披露レセプション 平成25年6月5日(水) 18:00～19:45
名古屋東急ホテル 3階 ヴェルサイユの間

中部展の出品数は、巨匠14点、代表76点、委嘱14点、招待158点、秀拔選593点、合計855点、会期中の入場者数は、愛知県美術館・名古屋市博物館の両会場合わせて5,807名だった(前回40回展の入場者数は4,041名)。

中日新聞社の紙面協力、東海テレビ放送の放映協力、中部日本書道会の協賛を得ている。第1会場・第2会場の会期が重なる初日の6月5日(水)16時30分から名古屋東急ホテル3階「バロックの間」において講演会を行い、出品書家・招待者・関係者・一般212名の聴講があった。

また、引き続き同日18時から、同ホテル3階「ヴェルサイユの間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて340名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、中日新聞社常任顧問 小山勇氏から共催者挨拶があった後、樽本樹邨顧問の書家代表挨拶へと続き、東海テレビ放送株式会社事業局長 加藤昭宏氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時45分に終了した。

(3)東京展

会期 平成25年6月13日(木)～6月23日(日) 6月18日(火)は休館日
会場 国立新美術館(展示室1A・1B・1C・1D)
主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
後援 文化庁
講演会 平成25年6月13日(木) 11:00～12:00
ホテルオークラ東京 本館1階 曙の間
開催披露レセプション 平成25年6月13日(木) 12:30～14:00
ホテルオークラ東京 本館1階 平安の間

東京展の出品数は、巨匠14点、代表76点、委嘱39点、招待533点、秀拔選837点、東京展合計1,499点、他展の委嘱(関西展委嘱31点・中部展委嘱14点・九州展委嘱12点)も加わり、総展示数1,556点で当会としては最大の展示数。

会期中の入場者数は9,751名だった(前回40回展の入場者数は9,731名)。

会期初日の6月13日(木)11時から、ホテルオークラ東京本館1階「曙の間」において講演会を行い、出品書家・招待者・関係者・一般382名の聴講があった。

また、引き続き同日12時30分から、同ホテル本館1階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて486名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、株式会社共同通信社代表取締役社長 古賀尚文氏から共催者挨拶があった後、文化庁長官 近藤誠一氏の来賓祝辞へと続き、外務省外務事務次官の河相周夫氏の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、14時に終了した。

(4)九州展

会期 平成25年7月4日(木)～7月9日(火)
会場 福岡アジア美術館(7階企画ギャラリーABC・8階交流ギャラリー)
主催 (公財)全国書美術振興会 西日本新聞社
後援 文化庁
講演会 平成25年7月4日(木)16:30～17:30
福岡アジア美術館 8階 あじびホール
開催披露レセプション 平成25年7月4日(木)18:00～19:30
ホテルオークラ福岡 4階 平安の間

九州展の出品数は、巨匠14点、代表76点、委嘱12点、招待132点、秀拔選207点、合計441点、会期中の入場者数は2,231名だった(前回40回展の入場者数は2,065名)。

西日本新聞社の紙面協力を得ている。

福岡アジア美術館も今回で3回目の借用となり、美術館規約や使用感にも慣れつつあるため、九州展の展覧会場として定着していきたい。

会期初日の7月4日(木)16時30分から、福岡アジア美術館8階「あじびホール」において講演会を行い、出品書家・招待者・関係者・一般120名の聴講があった。

また、引き続き同日18時から、ホテルオークラ福岡4階「平安の間」において開催披露レセプションを行ったが、来賓・出品書家・招待者合わせて94名の出席があった。

レセプションでは、当会津金孝邦代表理事・理事長、荒船清彦代表理事・会長の主催者代表挨拶、西日本新聞社執行役員企画事業局長 蔵本泰慶氏から共催者挨拶があった後、師村妙石参事の書家代表挨拶へと続き、松清秀仙評議員の発声により乾杯を行い、祝宴に入り、19時30分に終了した。

全展共通の試みとして、入場者数や客層を広げるため、現代書壇巨匠の出品作品をはがきにして来場記念品として1枚ずつ贈呈しており、今展も行った。

総贈呈枚数は8,876枚(40回展の総贈呈枚数:7,407枚)。

直轄4展総入場者数20,567名に対して約43.2%の贈呈率(40回展の贈呈率:38.4%)。

2. 第41回「日本の書展」巡回展

現代書壇巨匠と現代書壇代表の90点については、関西展、中部展、東京展、九州展の直轄4展終了後、本会・共同通信社・各地元新聞社の共催、文化庁後援により、約1年間をかけて、地方9カ所を巡回している。現在6番目の岡山展まで終了。

第41回「日本の書展」巡回展 実施会場一覧

	開催地	地元主催新聞社	会場	会期	地元作品数	入場者数
1	富山 富山市	北日本新聞社	富山県民会館	25.7.12～7.15	206	1,713
2	島根 松江市	山陰中央新報社	島根県立美術館	25.8.22～8.26	200	598
3	栃木 宇都宮市	下野新聞社	FKD ショッピングモール宇都宮インターパーク店	25.8.29～9.3	300	3,209
4	青森 青森市	東奥日報社	青森市民美術展示館	25.9.6～9.10	287	1,015
5	広島 広島市	中国新聞社	福屋広島駅前店	25.9.26～10.1	685	22,594
6	岡山 岡山市	山陽新聞社	天満屋岡山店 6階葦川会館	25.10.16～10.21	588	4,356
7	奈良 奈良市	奈良新聞社	奈良県文化会館	26.2.19～2.23	(224)	(2,574)
8	長野 長野市	信濃毎日新聞社	長野県信濃美術館	26.3.7～3.10	(232)	(1,832)
9	茨城 水戸市	茨城新聞社	茨城県立県民文化センター	26.4.12～4.17	(286)	(2,840)

※ () 内の数字は前回第40回展の実績

3. 第41回「日本の書展」東京展 公募臨書

会期 平成25年6月13日(木)～6月23日(日) 6月18日(火)は休館日
 前期展示 平成25年6月13日(木)～6月17日(月)の5日間
 後期展示 平成25年6月19日(水)～6月23日(日)の5日間
 会場 国立新美術館(展示室1Dの一部 52～54室の3室)
 主催 (公財)全国書美術振興会 共同通信社
 後援 文化庁

2012(平成24)年の第40回から東京展に新設・併催された公募臨書も今回2回目となる。出品点数は870点で、初回の前回より64点減となったが、安定した応募数となった。

平成25年1月18日には、国立新美術館審査室において、審査委員14名による入選・落選の審査鑑別を行ったが、入選率50%を念頭に置いた審査となり、結果、入選数は480点、入選率は55.1%となった。内訳は下表参照。

出品整理料は前回同様1,000円で、入選作品は表具をして国立新美術館に展示した。前回は、51～54の4室を使用し、壁面展示は1段掛けとしたが、今回は壁面展示となる半切たて作品の出品が大変多く、また、本展秀抜選の作品展示を圧迫しないための考慮として、52～54の3室に2段掛け展示を試みた。展示後、入選者には表装作品と共に「入選證」が贈られ好評だった。

第41回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <展示方法・展示期間別内訳>

	壁面展示	机上展示		計
	半切たて	半切よこ	篆刻	
前期展示	208	24	8	240
後期展示	208	24	8	240
入選数合計	416	48	16	480

第41回「日本の書展」東京展公募臨書 入選数一覧 <作品ジャンル別内訳>

	漢字		仮名		篆刻
	半切たて	半切よこ	半切たて	半切よこ	
	352	12	64	36	
364		100			
入選数合計	480				

II. 書美術功労者の顕彰

日本芸術院会員になられた井茂圭洞顧問の功労を顕彰し、記念品を贈呈した。

以上